

〔新撰姓氏錄左京神別〕湯母竹田連

火明命五世之孫建刀米命之男武田折命景行天皇御世擬湯殖賜田夜宿之間菌生其田天皇聞食而賜姓菌田連後改爲湯母竹田連

〔本草和名六〕青芝一名龍芝 赤芝一名丹芝一名朱草芝一名九曲已上二名 黃芝一名金芝一名地節出太清經 白芝一名玉芝一名白符出兼名苑 黑芝一名玄芝 紫芝一名木芝陶景注云俗所用紫芝是

朽樹株所生狀如木樛

〔多識編三〕芝和名今按比志利多計

〔和爾雅七〕芝一名茵又曰靈芝有青黃赤白黑紫六色

〔古今要覽稿草木〕芝れいし

靈芝は王者の徳草木に至れば生ず孝經 王者の徳山に至れば生ず 通白虎などいひて種類數多あり五色芝は仙藥にてこれを服すれば不老延年なりといふ證類 本艸さればこそ瑞草なりといへ

り日本紀にはこれを食して命長きことを記され延喜式には祥瑞の部に收られたり弘賢曰服せざれば瑞草もいたづらに翫物のみ今世間多く生ずるはいづれも紫芝なり或は樹根に生じ

或は石間に生ず其樹は西土にては李樹に生じ唐 秋又椿樹に生ず清 異 錄今みる所おほくは松梅椶櫚等に生ず猶いづれの樹にも生ずべきにや方士は木を積て藥を傳れば五色芝を生ずとい

ひ本草 綱目道家にて糯米飯をつきたらし雄黃鹿頭血をつみかほかし冬至日土中に埋をけばをのづから靈芝を生ずといへり今も樹のきり株に米泔水を度々そげば靈芝を生ず櫟の木

椿木と秘傳 花鏡いへりかく人作にて生ずるほどならば瑞物ともいひがたきか明の李時珍は此類は腐朽の餘氣にて生ずれば人の瘤のごとし瑞草となして服すれば仙となるなどいふは誠に

あやまりなりといひて酉陽雜俎の家の柱に芝を生ずるは凶事なりといふことさへ引りさて